

日本労働年鑑 第26集 1954年版
The Labour Year Book of Japan 1954

第二部 労働運動

第二編 労働組合運動

第三章 失業者の闘争

第二節 主要な闘争

一月 福島県郡山自由労組員約三〇〇名が二四日午後、郡山公共職業安定所の庁舎内に集合、代表を選出して所長と面会、(一)賃金を三〇〇円に値上げすること(現行一八五円)、(二)輪番就労制を撤廃すること、の二項目を要求した。所長は「予算の枠がないので要求は実現できない」と拒否、武装警官隊の出動を要請した。自由労組員は、警官隊に押しだされて市役所玄関前に移り、大会をひらいて要求貫徹まで闘争することを決議した。翌二五日午後も、同自由労組員約一五〇名が所長に面会を要求したが拒絶され、そのうえ警官隊と衝突、委員長ら九名が検挙された。

二月 山形自由労組員約五〇〇名が、県下各地区自由労組代表者の応援を得て、一八日、県庁、市役所などに、完全就労、輪番制廃止、賃金値上げ、燃料手当支給を要求して押しかけた。当局は、弾圧に二〇〇名の警官を動員し、初の県非常警備計画にもとづく県下警官の待機命令を発した。自由労組は、午前九時ごろから午後五時ごろまで、山形市内を活潑に行動した。そして、この日に行動をともしなかった班長や現場監督は、組合員から退陣をせまられ、五日後には、班長ら十数名が現場から逃亡してしまうという事件までおこった。

のちに全日本土建一般労組(全日土建)機関紙「じかたび」(六月中旬号)は、「現場の自主管理を闘いとれ」と題して、つぎのようにのべている。

おれたちにもっとも縁深い民間土建では「タコ部屋」が増え、腕っぶしの強いゴロツキが監視して、奴隷のようにこきつかっている。これに似たことが、おれたちの現場にもさいきんとくにひどくなってきた。いままでおれたちの手で選んだ班長・監督をくびきり、デカあがりやゴロツキを配置している。敵はこれによって、おれたちを一人前の土方に仕上げ、軍事基地建設の動員をねらっているのだ。同じ仕事をやりながら、A・B・Cと賃金の格付け(職階制)をきめたり、日いっぱい働かせたり、組合活動を制限したりして、おれたちを苦しめるのは直接にはこの天下り監督だ。

こんな監督が現場にいるあいだは、おれたちの要求はツメのアカほどもとれないばかりか、ゆくゆくはタコ部屋か、銃剣を横腹に軍需工場できき使われ、これができないおじさん、おばさんは手帖をとりあげられる結果になる。侵略者や吉田にとっては、ねがったりかなったりだ。

おれたちは、まず現易でこの吉田の手先、天下り監督を追放し、現場の民主化を闘いとろう。
各現場で現場委員会を組織せよ。
天下り監督・班長を廃止し、公選の班長・監督を闘いとれ。
現場はおれたちの手で管理せよ。

また、山形市長は、二月一八日当日、就労手帳をだしたものに一人当り一五〇円を生活保障費としてわたすことを約束したが、この市長の処置は、市議会などから強い反撃をうけた。

なお、一四日には、山梨県東山梨郡東雲村の生活困窮者たちが、塩山公共職業安定所に押しかけ、「われわれにも失業対策の事業をよこせ」と要求したのが注目された。

三月 一〇日朝、東京の王子統一自由労組員約四〇〇名が、連日の雨雪のため、雨天出面の支給(C級二五三円の六〇%)に不満をいだき、「天気の日と同じ日当をよこせ」と北区役所に押しかけた。

また、一二日午後、宮城県石巻自由労組代表一〇名が、石巻市長と会見、市長は、児童の教科書購入費一五万円の支給と、託児所を三月中に建設することを約束したが、完全就労、賃金値上げなどの要求については、検討の期間をあたえてくれるように申し入れ、会見打切りを宣言した。これにたいして、自由労組代表は会見継続を要求、社会・共産両党の応援を得て、同労組員約二〇〇名も市長らをかこんですわりこんだ。午後一〇時、交渉は完全に決裂し、市側は全員の退去を最終的に要求した。しかし、自由労組員は退去せず、出動した武装警官隊と乱闘になり、八名が検挙された。石巻市警察署は、一三日午前一時から、全市に非常警備体制をしいた。

四月 青森市自由労組は、二日から連日、二〇〇人ないし三〇〇人が県庁に押しかけ、すわりこんだ。青森県では、二六会計年度月平均日数の一九・五日にくらべると、二七年度予算では月平均就労日数が一三日にしかならず、これでは失業保険給付権利取得の月一四日就労という基準さえ下まわり、失業保険給付を受けられないことになるので、同自由労組は、三月以来、就労日数の拡大を要求しつづけてきた。七日、労働省は、暫定措置として、青森県における四月の就労日数を二日間だけ拡大するという通知をしてきた。

また、一〇日には、東京の「全都日雇賃上共同闘争委員会」代表二七名と東京都労働局長とのあいだに交渉がおこなわれ、労働者側から、(一)メーデー当日の有給休暇を認めよ、(二)雨降りの平常賃金支給、の二点が要求された。

二五日、全日土建が中心になり、全国土建産業労組連合(全建労)、日本建設労組(日建労)、全都日雇賃上共闘委、東京地方附添婦組合、東京石工労組、横浜大工職組合連合会、全日本医療従組協議会などが参加して、「健康保険適用獲得期成同盟」が結成された。その結成大会の決議、スローガンは、つぎのとおりである。

(決議)

われわれ土建および日雇労働者、附添婦その他の労働者は、一致団結して健康保険獲得期成同盟を結成し、あらゆる労働団体、政党ならびに関係団体、有識者の協力のもとに、左記事項の実現のために、全組織、全力をあげて運動を推進するものとす。

一、健康保険のない労働者に即時、国庫補助による健康保険制度を適用すること。
(スローガン)

- 健康保険のない労働者に即時、国庫補助による健康保険をつくれ。
- 病気、結核、災害より労働者を守れ。
- 健康保険のない労働者はひとつにまとまろう。
- 中央に、地方に、職場に、国民運動を押しすすめよう。
- 再軍備より社会保障を。

五月 大分県臼杵市の日雇労働者四五〇名が、「五月六日の失業対策事業を休みにしろ」と要求し、同市長や職業安定所長に交渉した。これは、連休三日間にひきつづき、

あと一日休めば就労規則による待期満了となり、月末まで雨休みでも、日給にたいする六割の失業保険がもらえるからである。

東京メーデー事件では、とくに、東京土建一般労組の組合員が多数検挙され、その総数は、五月一七日現在で三二六名にたった。これを職安別にみると、飯田橋七、神田橋五三、上野一六、芝園橋二〇、五反田一七、大森一七、渋谷二四、新宿一五、池袋三五、王子三四、足立九、本田一八、亀戸二四、青梅二、三鷹三一である。

六月 二四日、大分県別府市における日雇労働者の賃上闘争にたいして、別府地労評が共同闘争を呼びかけ、まだ不十分ではあったが、就業労働者と失業者が提携する方向をうちだした。

全日土建職人部は、四月ごろから問題になっていた全国職人組織の統一について、全建労などから、自由労働組合をふくめた統一組織には反対されていたため、職人部出身の委員長、書記長は自由労働組合分離の方針をすてなかった。そこで、六月一三日、一四日の両日、全日土建本部で「自由労働組合全国活動家会議」がひらかれた。この会議には、一一都府県、三二組合の自由労働組合代表が集り、組織問題および活動方針について、つぎのように決議した。

一、組織問題

- (1)委員長、書記長は分裂主義者である。
- (2)六月一六日の名古屋における全国土建労働組合総連合(土建総連)結成大会には、自由労働組合よりも代表者をだし、統一の必要を訴える。
- (3)最悪事態を予想して、自由労働組合の臨時指導部を設ける。

二、闘争方針

- (1)生活を守る闘い—賃上げ闘争、税金闘争
- (2)平和産業を拡大してゆく闘争
- (3)反ファッショ、人権を守る闘い
- (4)平和を守る闘い

七月 全国各地で夏季手当(お盆手当)を要求する闘争がひろがった。大分県日雇労働者賃上闘争統一委員会主催の日雇労働者大会が、二〇日、別府市でひらかれ、約六〇〇〇名が県下各地から集った。

八王子市では、二日、都南土建一般労組が夏季手当三〇〇〇円を要求し、五日には市役所前でハンストにはいり、七日に警官隊の出動で一時中止したが、八日には再度ハンストをはじめたので、「市政研究会」が斡旋にのりだし妥結した。

農村でも夏季手当を要求する闘争がおこり、三一日、福島県磐梯村の磐梯自由労組が、夏季手当五〇〇〇円と三〇〇〇円の貸付を村当局に要求し、役場前ですわりこんだ。

八月 八日、山形自由労組は一〇〇〇円の「お盆手当」を県庁に要求し、デモをおこなった。同自由労組の要求については、四日、ひらかれた県下五市の市長会議で、「お盆手当」は労働省の指示がないかぎり支給しないという県の方針に従うことがきまっていた。ところが、山形市だけが八〇〇円の支給をとつぜん発表したので、当局側の足並みがみだれ、自由労組に要求の手がかかりをあたえたのである。

また、一八日、福岡県八幡自由労組は、越盆資金の要求で、約七〇〇名がすわりこんだ。

二一日、社会党の影響下にある全東京日雇労組協議会(全日協)東京地方日雇労組連合会(東日連)、東京都日雇労組協議会(東日協)は、東京において「全都民主日雇

労組連合協議会」(全日労連)を結成した。

九月 九月にはいると、夏季手当(お盆手当)の闘争も下火になり、求職闘争の件数は一〇〇〇件を下廻るでいどに少なくなった。

それでも、「旧盆手当」をめぐる要求をつずけていた全徳島自由労組員約四〇〇名は、一日、ちょうど開会中の徳島市議会議場にはいり、かねてから提出してあった要望書の返事を要求した。議長ならびに市長は退場命令をだしたが、それに応じないので、徳島市警の「機動警備隊」を初出動させた。そのさい、組合員三名が検挙された。

職人部が土建総連へ離脱したのちの全日土建第七回定期大会は九月六日、七日の両日、京都でひらかれ、傘下七八組合の代表が参加した。運動方針のなかで、賃金闘争としては「月最低一万円よこせ」を決定した。

一〇月 自由労働組合が、失業対策事業の事業主体たる都道府県または市町村に、正式の団体交渉を申し入れた例は従来からあったが、サンフランシスコ条約の「発効」とともに、この傾向が増し、とくに一九五二年一〇月以降の越年闘争のなかでひろがった。なかでも、この申し入れをもっとも強硬におこなったのは、夕張自由労組、小樽合同労組、全高知自由労組などであった。

十一月 一九五二年越年闘争を前にして、十一月七日、東京土建一般労組は解体することに方針が決定し、その代りに、全日土建に直結する「全都日雇統一会議」が結成された。そして、全日土建も、十一月三日、四日の両日、東京で中央委員会をひらき、つぎのような「当面する越年闘争の方針」を採択した。

一、全力をあげて越年闘争を組織せよ

1 (略)

2 越年闘争は、アブレ反対、有給休暇という初歩的要求から越年手当までふくめて、全国的な生活をまもる闘争である。

3 つよい組合を中心にして、県(都道府)共闘、地域共闘を組織してたたかう。このさい、市長会議にたいする統一行動を強化する。

4 (略)

5 全国各地での圧力を基礎にして、関東ブロックと本部が労働省への交渉を強化する。

二、再軍備反対闘争をいっそう強化する

1 越年資金は再軍備費からだせという運動をつよく推進する。

2-4 (略)

三、最低生活費一万円の要求をいかにしてみなのものにするか

いま、われわれ自由労組の中心の要求は最低生活保障である。たとえ完全就労と一時手当が獲得できたと仮定しても、われわれの生活はどうにもならなくなっているのが現状である。したがって、越年闘争のなかで、きたるべき最低生活保障のたたかいを、いかに準備すべきかが、われわれの第三の課題である。

1 (略)

2 最低生活保障闘争と職階級賃金打破のたたかいとを結合してゆくこと。

3 生活調査をつうじて大衆的に要求額をきめてゆくこともたいせつである。

4 いま、総評に結集している労働者は、最低賃金のための闘争にたちあがっている。われわれの最低生活保障闘争は、これとかたくむすびついている。

四、平和的土木工事を守る運動を一步前進させる。

五、失業反対闘争をどう具体化するか

1 (略)

2 地域ごとに労組を中心として、失業者の日常要求を組織しながら、失業反対委員会を組織してゆく。この委員会は、地域の復興会議というようなものに発展してゆくであろう。なぜなら、失業に反対することは、農村では中貧農の没落、都市では労働者のくびきり、平和産業の破滅、中小商工業者の破産ということに反対して、これらの平和的復興をたたかいとるということとおなじことだからである。

六、越年闘争を現場闘争の上に闘おう

1 いま全国的にみて、現場組織をもたない組合がいくつかあるが、これは根本的な誤りである。居住組織で現場組織の代理をさせることはできない。また、たまり場での演説だけでこの現場組織に代えることはできない。敵の政策強行の第一線が現場にあるのだから、われわれのこれをはねかえす力がまず現場闘争にあることは、あまりにも明白である。

2-4(略)

七、労働者と統一行動をつよめよう

八、地域の住民との統一行動をすすめよう。

一一月に全日土建のおこなった対労働省交渉は数回にわたったが二六日、労働大臣宛つぎのような要求事項を提出した。

- (一)越年資金五〇〇〇円
- (二)労務物資の無償支給
- (三)完全有給休暇七日間
- (四)一二月、一月、二月の完全就労

一二月 前月にひきつずき、全日土建の対国会闘争が活発におこなわれ、八日の「全国活動家会議」にひきつずき、九日には全国代表ら一三〇名が国会に押しかけ、坐りこみ交渉をおこなった。

そして、ついに同日、衆議院労働委員会は、つぎの決議をおこなった。

(失業対策事業に就労している失業者の越年措置に関する決議)

失業対策事業に長期にわたり就労している失業者にたいして、これが年末年始の生活の実態にかんがみ、政府はこのさい、すみやかに賃金増給の具体的措置を講じ、これを年内支給することを要望する。

日雇労働者の越年資金について国会で決議がおこなわれたのはこれが最初であり、各地方の闘争を基礎にして、国会・労働省にたいする中央交渉を強化し、三日分の賃金を獲得した全日土建の闘争成果は、重要な意味をもっているといえよう。

日本労働年鑑 第26集 1954年版

発行 1953年11月20日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 時事通信社

****年**月**日公開開始

